

この本と私

読むことで
気付くこと
書くことで
判ることがある



「ショートカット」

柴崎 友香著

読み始めのところで、この本を選んだことは失敗だったのでは・・・けれど・・・もう少し・・・話の流れは日常会話をうまくつないで分かりやすい。「会話」の拙い私にとつてはとてもよい本だという気が段々としてきました。「会話」のトレーニングをかねて読み進んでいくと「ワープする」という非現実的なことも、「なるほどソウだったのね」等、思わず笑っていました。人の想いを不思議な物だと感じました。話をする、言葉をかわす、その流れの中に想いが乗って時空を超えて旅をする。毎日の言葉を正しく使う事は大切です。そして関西（大阪）の言い回しの柔らかさ、「三時間しかかからへんねんもん」「電話通じへんかってん」文字から受ける感覚が私の「好き」にはまったようです。人には「好き」と「嫌い」があって全ての行動は好みに影響されると思いました。

関西弁（大阪弁）は特に好きではありませんでした。こんなに、ふわふわした感じは初めてです。私にとつてのフワフワは最上級。もう一つ、物語の最後の言葉も気に入っています。「だって、わたしはどこにでも行けるから」。この言葉を表すように、本の表紙の挿絵は女の子が足を踏み出してどこかへ行こうとしているようにみえます。自分が行きたい所を決めて一歩を踏み出す、今の私に一番必要なこと。直ちに考え行動する。この本をゆっくり読み返します。

聰子



河出 文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞